

## 若い世代の道標になりたい ～元気で健康な牛を育てたい～



師匠の大立目さん(左)と富栄隆さん奈美さん夫妻

登米市米山町で和牛繁殖農家を営む富栄（とみえ）隆さん（43）は新規就農して四年目の春を迎えた。

十五頭の導入から始め、現在は三十頭の繁殖和牛を飼育している。就農にあたり牛舎建築と母牛の購入費用は、日本政策金融公庫による青年等就農資金を利用し、自身の土地を利用することで設備投資を抑えた。

「元気で健康な牛を育てること」を目標にしている富栄さんは、母牛と子牛がパドックと牛舎内を自由に行き来できる環境を構築した。

粗飼料に関しては、これまで全量購入していたが、借り入れ農地が増えたこともあり自給粗飼料に力を注いでいる。

地元で和牛の一貫経営をしている大立目（おおたつめ）敏夫さんに粗飼料づくりを学び、少しずつではあるが、品質の良い牧草や飼料用稲を収穫できるようになってきた。

最近では、事例視察や近隣の高校から農業現地研修なども受け入れており、富栄さんは「地元の登米市で新規就農を望む若い世代をサポートし道標になりたい」と頼もしく語った。